

乗用型トラクターの事故に関する 安全対策のポイント

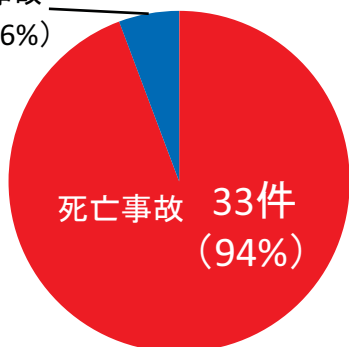
[都道府県事故情報(平成22年4月～23年3月)詳細分析結果]

①安全キャブ・フレームのあるトラクターを使用し、シートベルト着用を徹底しましょう！

○安全キャブ・フレームの有無による事故割合

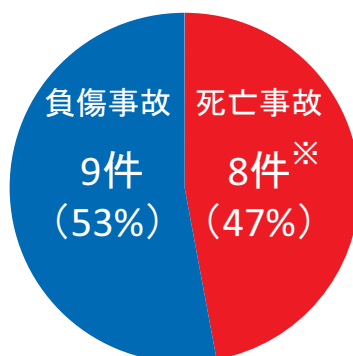
安全キャブ・フレームのないトラクターで事故を起こした場合、結果として亡くなっている方が多くなっています。

負傷事故
2件(6%)



安全キャブ・フレームなし

負傷事故 9件 (53%)
死亡事故 8件※ (47%)



安全キャブ・フレームあり

※ 安全キャブ・フレームありの死亡事故(8件)についてみると、うち5件はシートベルト未着用(推定を含む)。

安全キャブ・フレームのあるトラクターでもシートベルトを着用しなければ、安全域の中に身体が固定されないため、転倒した際に身体を守ることはできません。



【ここをチェック】



+



フレーム付きトラクターでのシートベルト着用を徹底しましょう。

いつも気をつけている



今後もっと気をつける



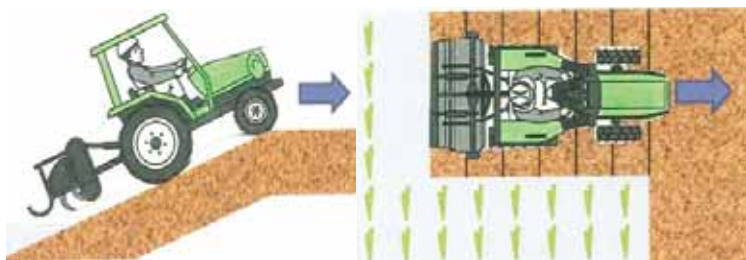
②作業環境を確認し、危険性に配慮しましょう！

転倒が発生している場所としては、ほ場から出入りする際の傾斜やほ場の端から法面に転落するケースが数多く報告されています。以下の点に注意し、事故を起こさない環境作りを心がけることが重要です。



【ここをチェック】

ほ場への進入路は、路肩等を整備しましょう！



作業機を下げて、傾斜に対して直角の向きで入退出しましょう。

いつも気をつけている



今後もっと気をつける



【ここをチェック】



危険が潜む場所は草刈りで見通しをよくしましょう。

いつも気をつけている



今後もっと気をつける



③ブレーキペダルの連結を確認しましょう！

転落・転倒事故の多くは操作上のミスが伴うものと思われます。ほ場から出たところでの事故では片ブレーキによる事故などが考えられます。



【ここをチェック】



作業が終わったら、ほ場を出る前にブレーキを連結しましょう。

いつも気をつけている



今後もっと気をつける

